

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 5月 10日

事業所名 児童デイサービス わんらいふ

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	2	2	2	個々の活動に応じて、場所を区切り支援している。	利用定員を守りながら、個々のサービスを提供できるように、職員配置を行える様に改善する。
	2	職員の配置数は適切である	2	4			急な欠員が出た際に、他職員の協力体制が取れる様に構築する。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1	3	2		障害になる箇所がないか？見直しを定期的の実施し、改善できるように実施する。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	1	3	2		業務改善を全職員が把握し、実施・見直しを繰り返して行える様に、ミーティングの場を通して定期的に実施・記録する。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	1	4	1		定期的にアンケートを実施し、保護者の意見を反映できるようにする。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	1	5			アンケート結果を広報誌(月間)を通して、内外に公開できるようにする。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		3	3		今後の検討課題とする。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	1	1	4		研修の機会を増やして、質の向上に努める。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	2	4		計画に対して、日々の記録を残し、反映できるようにしている。	計画に反映できるように、日々の記録・保護者からの要望・学校での状況を把握し、計画に反映できるようにする。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		6			具体的なアセスメントツールの使用を検討する。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	1	4	1	各職員で意見を出し合う	全職員で、意見を出しやすい環境を構築する。担当職員が固定化しない様に、年間行事の策定をする。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	1	4	1	各職員で意見を出し合う	全職員で、意見を出しやすい環境を構築する。担当職員が固定化しない様に、年間行事の策定をする。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	1	4	1	長期休暇・休日と平日とのプログラム内容を明確化する	今後も各日に応じて、課題やプログラムを設定し、職員が提供しやすい環境を構築する。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	1	5		個々の特性を日々の記録を残しながら、計画作成する。	個別計画の記録を残し、見直し・評価がしやすい環境を構築している。今後も必要に応じて、計画の見直しを行う。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	1	4	1	業務申し送りノートを活用している。	申し送りを実施し、当日のプログラム内容を各職員で把握・実施できるように明確にする。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	1	4	1	業務申し送りノートを活用している。	1日の振り返りを実施し、記録に残し迅速に対応できるようにする。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	1	4	1		継続して、個別記録を残し見直し・改善を実施する。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	2	4			モニタリングを今後も実施し、個々に適した計画策定に努める。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	1	4	1		ガイドラインの活用をする。

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	2	4			今後も継続して、会議に参加する。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	5	1			保護者のみならず、学校とも連絡を取り合いながら、送迎トラブルにならない様に、今後も継続して支援する。連絡先の交換等を毎年実施していく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2	4			看護師を配置し、最低限の医療行為ができる環境を今後も提供する。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	1	4	1	必要に応じて、情報共有に努めている。	個人情報に関わる点は、事前に保護者に確認を取りながら情報共有に努める。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3	3		必要に応じて、情報共有に努めている。	個人情報に関わる点は、事前に保護者に確認を取りながら情報共有に努める。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		3	3		今後の検討課題とする。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		2	4		交流の機会を模索していく。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している		2	4		積極的に参加できる環境を構築していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	1		主に送迎時に申し送りをしながら、情報収集に努めている。	送迎時に限らず、常時間い合わせができる環境を提供して。今後も継続する。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	4	1	主に送迎時に申し送りをしながら、情報収集に努めている。	日々の申し送りを実施しながら、問題点や対応方法の助言ができる様に、質の向上に努める。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3	3		契約時に説明を実施。	常時、問い合わせがあった際には、開示できる環境を構築している。今後も継続する。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	3	3		主に送迎時に申し送りをしながら、情報収集に努めている。	日々の申し送りを実施しながら、問題点や対応方法の助言ができる様に、質の向上に努める。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		4	2		今年は、保護者会の開催を検討する。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	3	3		窓口を全職員対応する。	保護者からの苦情等を全職員窓口対応し、問題解決を早期にできる様に職員間の申し送りを徹底する。今後も継続して、説明義務を果たしていく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	1	2	3	広報誌（月間）作成・交付する。	月刊誌を作成し、保護者や外部に向けて活動の見える可を図る。
	35	個人情報に十分注意している	5	1		同意書を取る	個人情報の取り扱いの研修を継続して、ミーティング等で定期的実施する。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	3	3		各種連絡方法を活用	SNS・手紙等を活用し、言葉では言い難い事を発信して頂ける様に配慮を継続していく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	4			近隣住民や自治会には、挨拶しているが、招待等ではきていないので、次年度には開催できるようにしたい。

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	1	3	2	各種マニュアルをファイリングし、いつでも確認できる様にする。	各種マニュアルファイルを職員が手に取りやすい場所に置き、中身の見直しや保護者からの問い合わせの際に迅速に対応できる様に周知する。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	1	1	4		年2回の実施を見える様に記録にも残し、広報誌等でも保護者にも伝わる訓練を図る。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	1	4	1	事業所内研修を実施	ミーティング等の機会を通し、虐待防止・身体拘束防止の各種研修を適宜開催する様にし、記録に残す。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	2	4		事業所内研修を実施	ミーティング等の機会を通し、虐待防止・身体拘束防止の各種研修を適宜開催する様にし、記録に残す。また、やむを得ずに実施する際には、保護者の同意をもとに行い、記録に残す様にする。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	3	1	事前アセスメントシートの活用	各種食物アレルギーの確認の上、必要に応じて保護者や担当医に確認が取れるようにする。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	1	3	2		ヒヤリハット報告書を活用し、事故に繋がる前に防止できるよう、職員で送りやミーティングの際に周知・対策を迅速に取れる様にする。